

【6年】

各教科共通

- ◎読み解く力（6つの領域）を土台として自己調整学習の推進を図る。
- ◎教科書分析を行い、言葉にこだわり、「読むこと・書くこと・話すこと」の時間を重視する。
- ◎必然性のある内容を工夫し、家庭学習との連携を図る。

国語

■児童の状況	○文章から、内容を理解することができる。 ●なぜ、そう考えたのか根拠を明らかにして言葉で説明することを苦手とする児童が多い。 ●自分の考えを文章で書き表す力が十分でない児童が見られる。 ●漢字を書く力は、個人差が大きい。
■指導についての課題	語彙の獲得と、書き表す力の育成
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・分からない言葉は、朝学習や自主学習で調べるようにする。 ・文章中で漢字を書く機会を増やし、定着するようにする。 ・文章でまとめる活動を多く設け、書く機会を増やしていく。 ・なぜ、そう考えたのか自分の考えを発表する場を多く設ける。

算数

■児童の状況	○図形を書いたり、グラフを書いたりする活動は多くの児童ができています。 ●四則計算が定着していない児童が多い。 ●なぜ、そう考えたのか言葉で説明することを苦手とする児童が多い。
■指導についての課題	既習事項の確実な理解
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・自力解決の時間を多く設け、ノートに考えを書く活動を繰り返し行う。 ・計算練習を繰り返し行い、確実に計算できる力を身に付けさせる。 ・毎時間の中で、自分の考えを発表する場を多く設ける。

社会

■児童の状況	○資料を正確に読み、分かったことをノートに書けるようになってきている。 ●時代背景が捉えられず、社会的事象を理解できない場面がある。
■指導についての課題	言葉だけではなく、理由を考えられるような授業構成の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・時代背景が分かるように提示する資料を工夫する。 ・授業中に、自分で調べる時間を取り入れ、調べた事をみんなで話し合う中で、自分の考えをまとめる時間を設けていく。

理科

■児童の状況	○実験に対しては興味をもち熱心に取り組んでいる。 ●観察、実験から得た結果から論理的に思考し、妥当とする結論を導く考え方が定着していない。
■指導についての課題	実験や活動を通じて、自分の考えを、文章で表現する力の育成
■授業改善に向けての具体的な方策	・毎時間、めあてを提示し、振り返りとの一体化を図る。 ・ノートの記録の仕方を工夫し、実験結果を基に考察を行う学習を繰り返し行う。 ・実験や観察など実際の活動を通して、科学的な思考力を伸ばしていく。

体育	
■児童の状況	○運動の技能には個人差があるものの活動には意欲的である。 ●体を動かす機会が少なく、体力に課題のある児童が見られる。
■指導についての課題	基礎体力を向上させるための工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・内容に応じて、体力向上につながる活動を取り入れる。 ・場を多く設け、全児童の運動力を確保していく。

家庭科	
■児童の状況	○生活を見直す学習を通して、家庭生活の大切さに気付き、自らの生活を見直そうと考える児童が多く見られた。 ●家庭での仕事を体験している児童と、そうでない児童の差が大きい。
■指導についての課題	・家庭科で学習したことを、日常に生かす工夫。(物やお金の使い方・整理整頓等)
■授業改善に向けての具体的な方策	・自らの生活習慣を見直すとともに、家庭での自分の役割に気付いて取り組むことができるよう、授業と日常生活がつながるようにする。

総合的な学習の時間	
■児童の状況	○一人一人が学習課題をもち、自分なりに解決しようと取り組んでいる。 ●様々な方法で発表ができるように力を伸ばしていく必要がある。
■指導についての課題	資料等から、自分の考えを、根拠を明らかにして発表することができる力の育成
■授業改善に向けての具体的な方策	・課題を解決し発表する場面では、資料の活用方法やまとめ方について助言をする。 ・様々な表現方法に触れる機会を増やすことで、工夫して自分の考えを発表できるようにする。 ・地域の方と連携をして、学びを発表する場を設ける。

特別の教科 道徳	
■児童の状況	○資料から、道徳的価値について自分の考えをもつことができる。 ●自分たちの課題を自分たちで解決する力はまだ十分とはいえない。 ●多面的、多角的に物事を捉えて自分の考えを再構築する児童が少ない。
■指導についての課題	道徳的価値の一般化の段階での展開の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・児童の実際の生活に即した題材を選び、発言することを通して各自の考えを共有し、多様な考え方に触れることができるようにする。 ・自らに振り返って考えることができるような発問をする。

外国語	
■児童の状況	○ゲームなどを通して、楽しく意欲的に活動に取り組んでいる。 ●習った言葉を使って会話をし、コミュニケーション活動をするにはまだ慣れていない。
■指導についての課題	授業での表現場面の設定の工夫
■授業改善に向けての具体的な方策	・繰り返し発音することで、言葉に慣れ親しめるようにする。 ・外国語を使った会話をしたくなるような場面設定を行い、コミュニケーション活動への意欲を高めるようにしていく。